

河原

青もなく聞き耳をたてて
清冽な水が流れてみた
白い石の底をたどって流れてみた
赤いジャケットを着たお前は
泣き
黒い外套を着た僕は
悲しみながら
口ぎたなく 罵りあひながら
離れて 急に 反対に歩んだ時
広い河原は静かすぎた
僕たちの会話を聞いてみたに相違ない
時間も日光も忘れ果てた
あんな怖ろしい事があつたなんて
お前の絶望的な叫び
真昼 白い石たちのひしめいてゐる所で
二人の運命が重い物質のやうに感じられた
僕は自分達が役者かと思つた